

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度第3回総合教育会議	
開 催 日 時	平成31年1月17日(木)	午前10時45分から 午前12時17分まで
開 催 場 所	福津市役所 本館2階大会議室	
委 員 名	(1) 出席委員 柴田教育長、青木委員、 藤井委員、半澤委員、今村委員	
所 管 課 職 員 職 氏 名	原崎市長、松田副市長、大賀総務部長、高橋健康福祉部長、吉田市民部長、堀田広報秘書課長、溝辺教育部長、増田教育総務課長、花田文化財課長、八尋郷育推進課長、神山学校教育課長、永松主幹兼指導主事、森指導主事兼教育指導係長、笹田総務企画係長、松本	
会 議 (内 容)	議 題 容)	「地域の人々をつなぐ福津市型生涯学習の充実」 「文化・健康・スポーツやきずなづくりによる市民生活の向上」
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	0名
	資料の名称	
会 議 録 の 作 成 方 針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
会 議 録 署 名 委 員		
そ の 他 の 必 要 事 項		
審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)		

1 開会の宣言

堀田課長：平成30年度第3回福津市総合教育会議を開会いたします。私は、本日の司会進行を務めます広報秘書課の堀田と申します。よろしくお願ひいたします。

本日の会議は、お手元にお配りしています会議次第に沿って進めてまいります。

2 挨拶

堀田課長：まず初めに、原崎市長、御挨拶をお願いします。

市長：皆様おはようございます。新年が明けまして、もう間もなく二十日がたとうとしておりますけども、新春いかがお過ごしでしょうか。年始より大変御多忙の折、本日第3回の総合教育会議に御出席賜りまして、誠にありがとうございます。会議の前にも教育委員会定例会を開いていただきまして、本市の教育行政に御協力いただきまして、本当に感謝を申し上げます。また、総合教育会議としては初めての出席になられると思いますが、今村委員におかれましては、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の協議内容は「地域の人々をつなぐ福津市型生涯学習の充実」と「文化・健康・スポーツや絆づくりによる市民生活の向上」です。現在本市の第2期の生涯学習計画並びにスポーツ推進計画の意見公募をしております。それを経まして、この生涯学習計画並びにスポーツ推進計画が策定されますが、本日はそれに関する協議内容になっております。福津市は現在子どもが大変増えておりまして、子ども達がしっかり育ていただくように、そして、現場の学校の先生方が、できるだけいい体制で子ども達の教育に携われるように、私のほうも教育長とともに予算編成にかかわらせていただいております。これにつきましては、3月議会のほうで、もう一回上程させていただくことになっております。

新春明けまして、毎年市の恒例行事でもある成人式を行わせていただきました。全員が出席したわけではありませんが、本市から576名の新成人が誕生いたしまして、本当に元気がある良い会となりました。彼らが、活力・元気を生かしてこの生涯学習に参画していただく、そういうまちづくりを進めたいと思っております。その成人式の後にも、新成人を祝い、福津市民の健康増進、並びに明るい新生活を送っていただく趣旨のもとに「福津市成人祝賀駅伝」が開催されました。私も選手として出走させていただきました。福間町の時代からは、もう64回を数え、今年は新成人のチームも編成され、そのチームが優勝をいたしました。翌日も、出初め式というのが開催されまして、若い世代が安心・安全のために消防団に関わってくれています。今年は女性消防班のポンプ操法もイオンモール福津の駐車場で大々的に開催させていただきました。「元気なまち、福津」を体現するような、

そういう立派な出初め式となりました。

このように御紹介させていただきましたのも、「地域の人々をつなぐ福津市型生涯学習の充実」「文化・健康・スポーツや絆づくりによる市民生活の向上」が本日の議題になっておりますので、委員の皆様から、いろいろ御意見を頂戴させていただきながら、本日の総合教育会議が有意義な協議の場になることを祈念申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

本日は、何とぞよろしくお願い申し上げます。

堀田課長：ありがとうございます。本日の協議内容ですが、会議次第を
ごらんください。

市長の御挨拶にもありましたが、福津市教育大綱における基本目標から「地域の人々をつなぐ福津市型生涯学習の充実」、「文化・健康・スポーツや絆づくりによる市民生活の向上」をテーマに、市長と教育委員の皆様と協議をしていただきたいと考えております。時間は1時間30分をめどに予定しております。

会議参加メンバーは、次第及び席次表のとおりでございますので、執行部の自己紹介は省かせていただきます。事務局を含め市執行部にはお願いですが、最初に発言される際に、所属部署とお名前を言ってください。

3 協議 「地域の人々をつなぐ福津市型生涯学習の充実」 「文化・健康・スポーツやきずなづくりによる市民生活の向上」

堀田課長：これから先の協議事項につきましては、市長の進行でお願いいたします。

市長：わかりました。それでは、早速協議に入らせていただきます。

本日の平成30年度第3回福津市総合教育会議ですが、今年度最後の会議となります。昨年度までは、福津市総合計画の施策の検証や、福津市教育大綱の策定についての審議を行ってまいりました。

平成29年度末に策定した福津市教育大綱では、「福津を愛し、人との関わりを大切に、未来に向けて学び続ける人づくり・まちづくり」を基本理念とし、9つの基本目標を掲げています。この教育大綱の基本目標より、平成29年度の第3回目の会議では、「国際交流・グローバル人材の育成について」と「環境保全を進めるための人材育成について」、今年度の第1回の会議では、「次世代を見通した地域の将来を担う人材育成について」、第2回の会議では、「子どもの育ちを支える家庭・地域の教育力向上」、「次世代育成支援による子ども・子育て支援の環境づくりの充実」をテーマとし、協議を行ってまいりました。

そして、今年度第3回目の本日の会議は、福津市教育大綱の

基本目標に掲げております「地域の人々をつなぐ福津市型生涯学習の充実」、「文化・健康・スポーツや絆づくりによる市民生活の向上」をテーマに協議を行いたいと思います。『福津市型総合教育システム「郷育カレッジ」の推進』、『大人や子どもが交流できるスポーツ活動の充実』、『心豊かな人権感覚を育む啓発事業の充実』、『健康づくり、生きがいつくりへの取組』等の視点から協議を行いたいと思います。

市では、地域で学び、子どもや地域に還元するために、地域の良さを語り継ぎ、学び続ける人づくり・まちづくりを進めています。また、福津の文化的行事や食育、スポーツ活動を通して、人との関わりを大切にし、地域の絆を深め、市民の参画意識を高めることを目指しています。

それでは、協議・意見交換に入らせていただきます。どのようなことでも結構ですので、教育委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

それでは、半澤委員お願いします。

半澤委員：福津市で開かれている郷育カレッジについてお伺いしたいのですが、講座の数や参加している方はどのぐらいいらっしゃるのでしょうか。広報の記事等を見ると、講座の内容はさまざまで、身近な体験型のワークショップや、市内各所の見学、歴史や文化、生活の知恵など興味を引くものが大変多いように感じます。このような講座の内容はどのように決められており、運営はどのようになされているのかお聞きしたいと思います。

また、小中学校や保育園・幼稚園・高校などと連携している事例があれば、あわせて教えていただきたいと思います。

市長：ありがとうございます。それでは、それにつきまして関係部署より回答のほうをお願い申し上げます。八尋郷育推進課長、お願いします。

八尋課長：教育部郷育推進課の八尋です。どうぞよろしく申し上げます。

この『郷育カレッジ』の冊子をご覧ください。この冊子に、郷育カレッジのことを概ね載せさせていただいております。御質問という形でいただきましたことに沿いまして、幾つか御説明させていただきたいと思います。

まず、講座数です。平成29年度は合計93講座実施予定でしたが、インフルエンザや台風の影響で6講座ほど中止になっております。平成30年度は、この表紙にも載せておりますが、全99講座を開催する予定です。今のところ、予定どおり順調に進んでおります。延べの参加人数としては、平成29年度は2,016名に御参加いただいております。今年度はまだ途中ですので集計はできておりません。

この運営につきましては、11名の市民委員の方による郷育カレッジ運営委員会に担っていただいております。もちろん、事前の準備や当日の講座の運営につきましては、委員の方々と

一緒に事務局として郷育推進課の担当職員が共同で行っている状況でございます。講座の内容につきましては、郷育カレッジ運営委員会の中に組織しているカリキュラム編成部会に編成していただいております。ここには6名の部会員さんがおり、年間を通してかなりの回数の会合を重ねられまして、その時々によりタイムリーな内容を講座に組み込んでいただいている状況でございます。

小中学校や保育園、幼稚園、高校などとの連携についてです。代表的なものとしましては、福間東中学校と密接に関連している『E J C』や津屋崎中学校との関連で『G I T (G o i k u I n T u y a z a k i)』があります。『E J C』についてですが、今年度の予定としては、全部で10回行われます。福間東中学校に地域の方がゲストティーチャーという形で入られて、7項目の講座を設け、1年生の全生徒がそれぞれ自分の希望する所で授業を受けます。内容としては、スタードームづくりや、みんなで奏でるハーモニー、ボランティアの関係、それから、ニュースポーツの体験等々の7講座を組み込んでいる状況でございます。明後日の1月19日に今年度最後の成果発表会というものが、福間東中学校で行われる予定になっております。

ほかにもいくつか学校と協働している事業があります。例えば、10月15日に「小学生が実演する勝浦人形浄瑠璃」を勝浦小学校で行います。他には、光陵高校で「うみがめクラブとわくわく生きもの教室」、水産高校で「豊かな海づくり～プロジェクトT～」などの講座を設けております。

子どもたちの夏休み期間中につきましては、主に対象の小学生が参加できるような「昆虫標本をつくろう」や、「テープコマをつくろう」等の講座も組み込み、連携を図らせていただいているような状況でございます。

市長：ありがとうございました。

郷育推進課長より郷育カレッジについて、このパンフレットの中身を主に御説明いただきましたが、他に御質問・御意見がございましたらお願いいたします。

半澤委員：受講者の方々についてです。どの年代の方が多いのでしょうか、また今後の課題としてはどのようなことがありますか。

八尋課長：受講者の方々の年齢についてです。平日の昼間に行っている講座がほとんどでございますので、現役でお仕事をされている方々は参加する時間がなかなかとりにくいようです。従いまして一般の講座としては60代・70代の方々が主になっております。先ほど申し上げましたように、子どもたち向けの講座もございますので、もちろん小中学生や高校生の参加も見られておる状況でございます。

課題につきましては、当然いくつかございますが、開講から

15年経ち、当初に比べればかなりいろんな分野に幅を広げ、その時々受講生の方々が求めている講座を組み込んでいるような状況です。大きな目的の一つに、地域のことを地域の皆さんで学びあって、教え合いましょうというものがあります。講師の方々についても、専門的な大学の教授の方をお招きする場合もございますが、基本的には地域の方々に講師になっていただくという考えで進めております。郷育カレッジで学ばれて、今度は教える側になろうというような循環型のシステムを目指しております。以前は郷育カレッジの受講生であった方が、現在は郷育のスペシャリストという形で講師をしている講座が約20%あります。課題としましては、この循環型というところを、さらに高めていけるように、今後市民の方々のお力をますます発揮していただけるような環境づくりに努めていきたいと考えております。

以上です。

市長：ありがとうございました。

今の回答につきまして、質問・御意見等ございますか。

今村委員：この郷育カレッジは非常に素晴らしいと思います。私が7年前に退職したときに、何かを習いたいと思い、調べていたのですが、ほかのところはお稽古事が多いようでした。この郷育カレッジは本当に地域に根差したようなもので、講師の方には地元の方もいらっしゃいますし、歴史的なことや文化的なこと、体験学習等いろいろありますよね。御説明ありましたように、小・中学校や高校に出前授業に行くこともめずらしいと思います。毎年、私はどういう講座があるかなとこのパンフレットを見ています。すると一般の方でも参加できるような内容や仕組みがたくさんあります。循環型というのは他の地域にないやり方だと思いますので、ぜひ続けてほしいと思います。

市長：どうもありがとうございます。

そうですね。その地域によって育てられ、その地域を育てていくという、循環型をイメージしたカレッジということで、当初スタートし、15年がたちました。今後の課題ということでも、八尋課長から、さらに循環型を目指すということで回答いただきました。

この郷育カレッジは福津市独自の総合学習システムということで、さらに広げていければと思っております。市民の皆様にもっと知っていただけるように情報の発信を進め、各学校等の機関との連携をこれからもより一層充実し、協力して進めていきたいと思っております。

それでは、その他にご意見・ご質問等ございますか。青木委員お願いします。

青木委員：先ほど、原崎市長のほうより、地域のよさを語り継いで、学び続ける人づくり・まちづくりを進めるという話がありました。

地域のことを学んで地域のよさを知るということ、地域のことを大切にするといい気持ちや育むことが大変重要なことと考えます。地域のために何かしたい、住みよい地域をつくりたいといった個人それぞれが主体的な意識を持つことが大事だと思いますが、地域のよさを語り継いで学び続ける人づくり・まちづくりを進めるために具体的に取り組んでいることはどのようなものがあるのでしょうか。教えていただきたいと思ひます。

市長：わかりました。地域のよさを語り継ぎ、学び続ける人づくり・まちづくりを進めるために、具体的に進められている取り組みについてのご質問です。学校教育現場の視点・生涯学習の視点、それぞれの回答をお願いします。

それでは、神山学校教育課長お願いいたします。

神山課長：学校教育課の神山でございます。

学校現場での取り組みについてということで、私のほうから回答させていただきたいと思ひます。

学校教育においても、自分たちが住んでいるまちや地域のことを学び、地域の良いところを知り、大切に思ふ気持ちを育むという活動を進めているところでございます。青木委員が言われたように、具体例を御紹介させていただきますと、一つは、市内全小・中学校で共通の学習を進めるために、平成29年度は「ふるさと福津」副読本を作成いたしました。この副読本は、福津の自然や歴史、伝統文化、遺産、偉人など魅力あふれる福津がわかりやすく紹介されております。これまで、この地域のこゝについて学習は各学校で進めてきていたのですが、平成30年度からは、この副読本を活用した学習に積極的に取り組んでいるところでございます。ただ、この副読本は冊数に限りがございます、現在は各学校に30冊から40冊程度ずつ配付をさせていただいて、学習資料として活用していただいている状況でございます。教職員研修におきましても、ふるさと学習研修会というのを年2回実施しております。この副読本や指導案等の活用について共通理解が図られるように、委員会としても研修会などを行わせていただいております。

また、皆様御承知のとおりだと思ひますが、本市が進めておりますコミュニティ・スクールでは、学校と地域のパートナーシップのもと、地域とともにこれまで築き上げてきております。子どもたちには、地域の方々とのさまざまなふれあひの中で、地域の方々への感謝の気持ちや、自分が住む地域を大切に思ふ気持ちが育まれているということを感じております。地域のために何かしたい、住みよい地域をつくりたい、その気持ちこそが大人になって地域人としてまちづくりに参画していきたいという気持ちにつながるものと確信しております。今後も福津市が掲げる、持続可能なまちづくりにもつながるように、このコミュニティ・スクールの充実・発展に力を入れて取り組ん

でいきたいと考えております。

市長：生涯学習の視点からはどうですか。八尋郷育推進課長どうぞ。

八尋課長：青木委員から御意見いただきました中に、市民自らが住みよい地域にしていくためのきっかけについてのお話が出ておりましたので、それに関連する話を少しさせていただきたいと思います。

先ほどから、郷育カレッジの話をさせていただいています。少しつけ加えさせていただきます。御承知のように、福津市には日蔭野を中心に市外から転入されて来られる方がたくさんいらっしゃいます。その方々からの声を少し紹介させていただきます。『郷育カレッジは、入学金500円、年会費1,000円で学び放題。この金額でこれだけのメニューをそろえていただけたところはほかにはない。非常にこのシステム自体がありがたい。』というような声をいただきます。特に、他の地域から引っ越してこられた方というのは、まず、福津市とはどんなところだろうという素朴な疑問を持たれます。郷育カレッジには、地元のことを知るための講座がいっぱい中に散りばめられているからとてもありがたいといったお話をいただきます。地元色豊かな講座が、たくさん入ってきているような状況でございます。この郷育カレッジだけではないのですが、市民の皆さんの力をお借りする必要があります。カレッジ一つ運営するにしても、カレッジの運営委員さんや市民の方々にはほぼほぼボランティアという形で御協力をいただいております。講師の方につきましても、講師料というのは、本当にささやかな費用でございますので、ボランティアに近い状況でお手伝いいただいております。その方々からは、『自分に役割や出番があることが非常に楽しみで、他の市民から頼っていただけていることがとても嬉しい。』といった声があり、我々職員としましては、本当にありがたいと思っております。そのような声を大切にしながら、福津市に住んでよかった、福津市に引っ越してきてよかった、といった思いの方々を増やして、住みよいまちに繋げれるよう進めていきたいと思っております。

ちなみにですが、生涯学習推進計画を今年度3月までには策定します。その中の、大きな施策の方向性として、

『「ひと」に学び、「ひと」を育てる』があり、

- ・郷土への愛着と誇りを持つ「ひと」を育てる
- ・福津を愛し、福津の良さを知り、住みよい福津を育てる力になりたいという意欲を持つ「ひと」を育てる

というような方向性を持って、それに見合う具体的な事業や施策をつくり上げていきたいと考えております。来年度以降になりますが、郷育カレッジというものを中心に据えながら、大いに市民の方々の力をお借りしながら、事業を組み立てていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

市長：ありがとうございました。

意識を大きく変えるというのは人それぞれ、難しい方もおられるかもしれませんが、地域のことを知って大切に思う気持ち、「地域のために何かをしたい」という主体的な意識へ繋がるようなことがあればいいなと思いました。

青木委員：神山課長が言われました副読本についてですが、そういう存在があるということを広報をしていくことや、そういうものを見たいと思えるように市民へのアプローチをしていただきたいです。副読本の存在を知らない方もおられると思うので、きっかけを作っていただきたいです。そしてやはりコミュニティ・スクールも一つの大きな手段であります。八尋課長が言われたように、郷育カレッジの活動は続けていただきたいなと思います。しかし、私の近所に住んでいる人達は郷育カレッジのことを知らない方も多いかと思います。田舎のほうは、20代・30代の人達は少なく、子どもの姿見ることもほとんどありません。田舎の地域ではおじいちゃんやおばあちゃん達が、田んぼでのんびりされています。そういった所へも広げていくということも考えていただければと思います。

副市長：先ほどの青木委員の問題意識はとても重要だと思います。地域のことを理解して好きになるだけでは、地域の課題解決を自分達で行うまでにはなかなかいきません。そのための主体的な意識を持つということも大事なのですが、地域の課題解決を自分達で行うために具体的にどのような取組があるのかを把握するというのも大事だと思います。

ボランティアセンターが中央公民館にできて、そこでいろんな活動ができるということも一つの取組だと思います。また、住みよいまちづくりの助成金の制度というのがあって、市民の皆さんが何か自分たちで取り組みたい課題を見つけたときに、その助成金を使うというのもあるのですが、まだまだ、十分周知ができていないのは課題だと思います。

それと、新年度にぜひ力を入れたいことは、青少年が地域の活動に参画できるような、青少年の活躍推進を新しいチームをつくり行うことです。特に、中学生・高校生はすごく勇気もあり、いろいろなことができます。既に今年度、高校生・中学生が一度、市長・副市長との意見交換会を行いたいと言ってきて、そこでいろいろな提案をもらいました。また、ジュニアリーダーの育成に大学生が関わっているのですが、彼らももっとこの取り組みを充実させたいということをも提案しているといった声もあります。このようなことをもっと広げていく必要があると思っています。

学習から具体的な活動にどのように結びつけるのかという問題意識はとても大事だと思います。御指摘していただき感謝申し上げます。さらにそこは次年度強化していきたいと思ってい

ます。

市長：他に御意見・御質問がある委員さんはいらっしゃいますか。藤井委員どうぞ。

藤井委員：先ほどの郷育カレッジですね。私も参加したことがあります。受講者の年代として60代・70代の方が多いとお聞きしましたが、子育て中のお母さんや、子ども連れでも参加できる講座が増えたら良いなと思いました。

また、少し別の話になりますが、福津市で行われている、文化やスポーツの取組として、先日行われました「成人祝賀駅伝大会」や「市民文化祭」などは広報等で目にしたことがあるのですが、他にはどのようなものに取り組まれているのでしょうか。文化もスポーツも、範囲はとて広いと思うので、市で実施されているもので、どのようなものがあるか教えていただきたいのでお願いします。

市長：それでは、今の藤井委員の御質問につきまして、八尋郷育推進課長回答をお願いします。

八尋課長：ありがとうございます。

文化やスポーツについては、市が主体的に関わっている直接的な取組と、市民の方が主体的にされているものを市としてバックアップさせていただいている間接的な取組がございます。

まず、文化についていくつか申し上げます。文化協会さんと連携して取り組んでいるもの、勝浦人形浄瑠璃保存会や民話劇団、それから福間浦盆踊り保存会等々につきましては、実施団体への補助金の交付等も行っています。それから、文化会館を利用した事業としまして、今は指定管理者に入っておりますので、そこに委託している形ですが、音楽のコンサートやお笑いライブ等、年間約20事業ほどの自主事業を実施しております。まだまだ集客力等の課題もいくつかございます。今後そういった広報力もアップしていきながら、市民の方々に広めていければなと思っております。

それから、スポーツについてです。一番歴史が古いものとして「成人祝賀駅伝」ですね。その他に市が主体的に行っている事業としまして、5月ごろに行います300歳ソフトボール、それから区対抗バレーボール大会、ちびっ子駅伝、なまずの郷健康マラソン、それからチャレンジランキング等があります。チャレンジランキングとは小学生対象のものでスポーツ自慢の子たちに集まっていただいて、体力測定的な形でゲーム性も交えた取組を行っております。また、高齢者向けの出前講座という形で、スポーツ推進委員さんが自分たちで持っておられるノウハウを活用されまして、各区からの要望に応じて、健康づくり運動を行っている状況もございます。それから、体育協会が

主催という形にはなりますが、卓球大会、そして市のバウンドテニスやグラウンドゴルフ大会等々も盛んに行われております。市が後援する形での事業としまして、秋にありますプリンセス駅伝や、夏にある水泳大会があります。

ちなみにですが、先ほど市長からのお話にありましたように、スポーツ推進計画を現在策定中であります。来年度4月から、この計画をスタートさせていくわけでございますけども、その中のスポーツの範囲としては、競技スポーツ等のみにとどまらず、ニュースポーツや、ゆるスポーツ、eスポーツといった様々な分野でのスポーツの取組を進めていきたいという計画を持っております。文化もスポーツも、する人、見る人、支える人、みんなでつながって福津というまちを形成していこうというような形で、文化・スポーツを推進していきたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

藤井委員：ありがとうございます。様々なスポーツをされていると伺いましたが、福津市には大きな体育館がありません。市民総合体育館みたいな大きい体育館が欲しいと思います。後、プールも屋内の市民プールのようなものがあつたら、高齢者の方々も運動にも使えると思います。そういったものを設置する計画というのはあるのでしょうか。

八尋課長：私のほうからは、郷育推進課としての考え方の現状だけ申し上げさせていただきたいと思います。

大きな体育館とプールについてです。今はもう夏が非常に暑く、屋外プールの利用は少ないような状況なので、屋内プールの設置が望まれております。そのようなお声はたくさん頂戴しておりますし、私達も十分に承知しております。担当課としましては、金銭面で余裕があればすぐにでも作りたいという思いはございます。しかし、現実には大きな予算を伴いますので、簡単に作るというわけにはいきません。

現状としましては、体育館については、旧福間町と旧津屋崎町の両方に体育センターを持っております。その両方に武道館もございます。体育館につきましては、今ある体育施設をできる限り活用していくという方針です。当然ながら、古い建物もございますので、老朽化等の不具合も生じております。従いまして、いつまでこれの修繕を重ね、どの時点でこれを使えなくなると判断するか等をこれから真剣に考える必要があります。それから、プールについては、市民プールという形のもは今現在持っておりません。先ほどのスポーツ推進計画というものを、来年度から10年間の想定をしておりますので、その途中年度の5年目ぐらいまでを、体育施設やプールについての考え方を整理する期間としていきたいと思っております。

青木委員：学校にあるような体育館ではなく、観客が周りを囲むような体

育施設があったらいいなと思います。宗像市のユリックスやグローバルアリーナはいろいろ活用もされていますし、オリンピックの合宿があるという話も聞いています。市民の人達は、やはりそういったことに興味があると思います。そこでも、宿泊施設が必要になってくるとも思います。来年度からの10年計画の中で、最終的にどうするのかを考えてほしいと思います。要望を兼ねて言わせていただきました。

市長：ありがとうございます。

今村委員：今、答弁聞いて思ったことなのですがよろしいですか。市民プールに関してですが、あったほうが良いと思います。しかし、利用者がどれくらいいるかを検討したうえで作るかどうか判断してほしいと思います。私はユリックスに行ったこともありますし、厚生年金スポーツセンターにも行っていました。施設が増えていることもあるとは思いますが、利用者が非常に少なかったことを覚えています。今、予算のことも言われましたが、すでに近くにジムやプールはあると思います。予算があれば、もちろん作っていただいた方が良くと思いますが、よく意見を聞いて検討していただきたいと思います。

それから、私は今年から自治会長もしているのですが、300歳ソフトの募集をかけてもほとんど人が集まりません。今年は他のチームと合同でチームを出しましたが来年度はどうなるか分かりません。高齢化が進み、せつかく市が設定して下さっているスポーツ大会でも参加者が非常に少なくなっていると思います。従いまして、高齢者に対応したような新しいスポーツを考えていく必要もあるのではないかと思います。危険だとか、体力がないとか言って遠慮する人もいます。だから、そのあたりは種目を変えるということも一つの方法かなとは思っています。

また、この『ふるさと福津副読本』は非常に良いなと思いました。他の自治体でもそのような副読本を作成しており拝見したことがあるのですが、量がこれの2倍ぐらいあったんですよ。内容はもの凄く良かったのですが、学校ではそのまま使えないなといった印象でした。しかしこれだったら、量もちょうど良く、そのまま学校で使えると思います。小学3年生から中学3年生まで学年も書いてあり、道徳・総合・社会科それぞれの教科から使えるようになっていました。字体も各学年に合わせて工夫されており、現場ではとても助かると思いました。全校1クラス分は配布されていると思いますが、公民館あたりも1冊か2冊は置いてほしいと思います。

神山課長：ありがとうございます。

八尋課長：貴重な御意見を本当ありがとうございます。

高齢者の方々向けのスポーツをとこのところで、300歳ソフトについても、実際にはメンバーの年齢を合計すると400

歳ソフト、あるいは500歳ソフトみたいなチームもあります。先ほど高齢者向けの出前講座ということをお願いしたけれども、スポーツ推進計画の中で、4月以降に健康の部門とも十分タイアップしながら、具体的に考えていきたいとおっしゃるところでございます。

市長：ありがとうございます。

高橋健康福祉部長どうぞ。

高橋部長：健康福祉部、高橋と申します。よろしく申し上げます。

今、高齢者向けの出前講座ということで御意見がございました。高齢者サービス課のほうで、健康づくりの面で認知症予防や介護予防について、出前講座を行っておりまして、郷づくりやシニアクラブ等を通じて御案内を差し上げて、活用していただいている状況がございます。ただ、十分に周知できてない部分もあるかと思っておりますので、今後もしっかり周知していきたいと思っております。

市長：ありがとうございます。

他に委員様から何か御質問等ございましたらお願いします。

今村委員どうぞ。

今村委員：医療の充実等により、平均寿命がのびており、人生100年時代の到来ということもいわれています。ただ長生きするだけではなく、いきいきと過ごすために、健康づくりや生きがいがづくりのための取組としては、どのようなものがありますか。

市長：では、高橋健康福祉部長お願いします。

高橋部長：市の健康づくりや生きがいがづくりの取組について御説明させていただきます。これらの取組につきましては、平成29年度に策定いたしました「第2次健康ふくつ21計画」と「第8期高齢者福祉計画」に基づいて計画的に取り組んでおります。

今村委員がおっしゃいました通り、高齢になっても元気にいきいきと暮らしていけることが非常に重要であると思っておりますが、現状といたしましては、平成22年時点で福津市の「平均寿命」と何の支援も必要とせず元気に暮らしていける期間である「健康寿命」の差が男性で約15年、女性で約20年でした。健康上の問題で日常生活に支障がある不健康な期間が長いことが、全国的な傾向ではございますが、福津市にとっても大変課題であると捉えております。

そのため、「第2次健康ふくつ21計画」では「健康寿命の延伸」を目標に掲げています。主な取り組みとして3つあげさせていただきます。

- ① 医療費の増大や要介護状態の大きな要因となっている生活習慣病の早期発見、発症予防、重症化予防のための健診の受診率の向上や保健指導を充実していくということで、重点プロジェクトとして取り組んでまいります。
- ② 健康の維持増進のために、食事、運動、休養、飲酒、喫煙な

ど健康に影響を及ぼす生活習慣をより健康的に改善することができるよう、情報発信や学習の場の提供を行っていきます。

- ③ 次世代の健康づくりとして、子どもの頃から健康的な生活習慣を身につけることができるよう、妊娠期から子育て期を通して継続的に支援をしていきます。また高齢者につきましては、高齢化に伴う身体機能の低下を予防するため、地域活動などの社会参加を促していきます。このことは生きがいつくりにも繋がるもので、「第8期高齢者福祉計画」の目標の一つでもございます。

このように趣味活動やボランティア活動などを通して、気軽に楽しみながら健康づくりや介護予防に取り組める環境整備を行うとともに、高齢者の方がこれまで培ってこられました知識や経験を生かして、活躍できる場を広げていくこととしております。

先ほど、副市長からもありましたが、支えあい協議体もその一つで、高齢者の方が支えてもらうだけでなく、元気な高齢者の方が支える側にまわることで、地域の課題解決につながっていき、活動されている方々が、無理にならない自分のできる範囲で活動することで、介護予防や健康の保持、生きがいつくりにつながっていくよう取り組んでいきます。

市長：ありがとうございました。

健康づくり・生きがいつくりのための取り組みとして、その他、関連の部署から補足等ありましたらお願いします。八尋郷育推進課長お願いします。

八尋課長：人生100年時代ということで、健康づくり・生きがいつくりが非常に大事だというお話が出ております。健康づくりについてのお話がありましたが、郷育推進課のほうでは、主に生きがいつくりの視点での施策を行っております。

生涯学習の推進、文化・スポーツ等の推進というものは、まさに生きがいつくりのための大きな取組であると考えております。スポーツの大会や文化の発表会、郷育カレッジに参加されている方々の顔を見ておりますと、自分の役割や出番がある方は非常に良い表情をしております。市民の方々の出番や役割をふやし、元気な笑顔たくさん見せていただけるような文化・スポーツ・生涯学習の事業を進めていきたいと思っておりますので、委員の皆様方にも、いろいろ御経験上の教えを我々のほうにもお知らせいただければと思います。

以上です。

市長：ありがとうございました。

『地域の人々をつなぐ福津市型生涯学習の充実』、『文化・健康・スポーツや絆づくりによる市民生活の向上』をテーマに教育委員の皆様から御意見をいただきました。

それでは、次に柴田教育長より御意見をいただきたいのをお願いします。

柴田教育長：本日は教育大綱の最後のテーマについて、意見交換を聞かせていただきました。

学校教育は社会教育がうまく組み合わさることにより進めることができるということで、大人も子どもも一体となり、人間として成長する機会を大事にしたいと思いました。福津は、神興教育と昔から言われて、『一人の子を粗末にするとき、教育はその光を失う』というものがあります。一人一人の市民の皆様のニーズに応じて、教育システムを構築していくことは容易なことではありません。市長の母校であります附属中学校、附属小学校には大きな石碑がありまして、そこには『国は人がつくる、人は師魂がつくる』とあります。やはりまちづくりの基本は人づくりであると改めて思いました。そういった意味で、郷育カレッジには、子どもも受講できる講座もあり、安くてとても良いと思います。これは、ぜひ全国に発信してほしいと思っています。

私は教育に携わって長いのですが、今から30年ぐらい前に、学校教育と社会教育の連携ということで、学社連携が始まりました。その頃は、学社融合とも言われ、いかに学校教育、社会教育をマッチングさせるかということ、盛んに言われている時期でした。幸い、福津市はコミュニティ・スクールを推進しているところでして、私自身としては将来的に学校施設をいかに市民に開放できるかということ、課題にしているところです。先ほど体育施設やプールの話がありましたが、学校施設の中に子どもたちだけではなく、市民も使えるプールがあると、市民が気軽に学校に入ってくることができます。あるいは、メディアセンター機能等を有した図書館を、子どもたちが学ぶ場だけではなく、地域の人を入れる場にすることで、子どもたちが大人から学ぶ機会をつくることもできると思います。子どもたちが学び、子どもたちの学びの場が市民に見守られている状況をつくることで、子ども達の学んでいる姿をいつでも市民に示し、またそこに教え・教えられるという関係が生じることで、何か子どもたちの成長につながったり、大人の生きがいがいづくりにつながると思います。いわゆる社会に開かれたカリキュラムという言葉はありますが、市民に開かれた学校というのを今後目指していけたらというのが一つの目標です。

私は退職するときに、卒業式の式辞で、子どもたちにこのような話をしました。

一つは、マルコポーロの話です。人生というのは、冒険心と開拓心を持ってということ、卒業生たちに伝えました。

もう一つは、山口県の月性さんというお坊さんの話です。皆さんもよく御存じだと思いますが、『人間到る処青山有り』と

いう詩です。つまり、故郷は大事にしなければいけないということ、故郷を旅立って切り開いていく機会も大事であるということ、そして、故郷に戻ってこられてもどこでも墓場はあるんだよというようなことを、伝えました。

そういう意味で、福津市は子どもたちがたくさん増えている地域ですから、その教育の果たす役割は大きいということをおよびの会議に出席して改めて思いました。今村委員からの副読本の話もしていただきましたが、地域をしっかりと学ばせて、そして、お互いずっと大事にして、学ぶ機会をつくらせて、開拓心と冒険心を持った子どもを育てていければと思った次第でございます。

以上です。

市長：ありがとうございます。

本日は多くの方々に御意見と御提言いただきました。副市長からも御感想をいただきたいと思ひます。

副市長：本日、委員の皆様のお話を聞いていますと、健康と生きがいへの関心が一番高いように思ひます。そして、実はそれに対して一番効果があるのは、繋がりや絆だと言ひられています。孤独だとなかなか健康にもなれないということで、行政としましては、繋がりづくり、絆づくりが実は究極の生きがいと健康づくりにつながっていくのだらうと思ひます。

そういう意味で、今回策定しているスポーツ推進計画のテーマも「スポーツがつなぐみんなの健康ときずな」になっております。だから、生涯学習の推進計画のほうも、「時代を超えて学ぶ福津の心」「広がる人の輪、学びの輪」ということで、繋がりの方がテーマになっておりますね。ですから、その考え方に基づいて、現在計画をつくっているということは、本当に福津市としては誇れるかなと思ひております。

また、まちづくりの基本構想についてです。10月の広報でも、パブリックコメントを出してはいますが、この中でもやはり、誰一人取り残さないまちづくりをしていくことや、繋がりを大事にしていくということが、出てまいりますので、そういうことをこれからも教育の推進の中でも進めていけるといいと思ひました。

市長：ありがとうございます。

それでは、私からも述べさせていただきます。

この教育総合会議が設置されまして、市長部局といたしまして、教育委員の皆様と協議をさせていただく場があり、大変ありがたく思ひております。本日も大変貴重な御意見をいただきありがとうございます。

まずは郷育カレッジについてです。市内外から良い評価をいただいております、この郷育カレッジですが、第2期生涯学習推進計画にもありますように、あらゆる世代が参画するまちづ

くり、人々のつながり、学んだことを還元できる、そして、この時代の状況に応じて、委員の皆様がこの内容を精査してつくられているということでございます。今は高齢化が進んでおり、また、いつ災害が起こるかわからない時代であります。行政だけでは担いきれない所もございます。新年度はそのような所に対応できる郷育カレッジのメニューを揃えていただけるよう、大変期待しております。さらにこの郷育カレッジのメニューを精査していただき、充実していただければと思いました。

それから、副読本についてです。福津市には小規模校もございますが、福間南小、福間小、津屋崎小といった大規模校もございます。この副読本は、せっかくいい内容でありますので、学校の規模に関係なく子ども達に行きわたるようなことは、考えていかなければならないと思いました。また、副市長からも住みよいまちづくり助成金の事業についてお話がありましたが、去年は住みよいまちづくりの助成金を使いまして、福津市の中で津丸地域や宮司地域のほうで、副読本として活用できるものを作成しました。地元の歴史のことをモマに語らせる等、子ども達にも読みやすいように、いろいろな工夫を凝らしました。特にその地域の子どもたちには知っていただきたいと思えます。

次に本市は都市化が進んでおりますが、御承知のように偏りはございます。教育委員さんには、主に、公立幼稚園も含め、小中学校の観点から学校教育、そして生涯学習について御提言いただいております。先日の成人式では実行委員長から本当にすばらしい、心に響くような冒頭の御挨拶がございました。中学生・高校生・大学生といった20代ぐらいまでの青少年に、もっとまちづくりにかかわっていただくような取り組みをすすめていきたいと思えます。去年そのような意見交換の場を設けさせていただいて、やる気満々の高校生や中学生が行き場を見失うのではなく、しっかり活躍でき、御高齢の方とも関われるような環境づくりが重要だと思いました。

最後に、高齢者サービス課のほうでやっております支え合い協議体と、郷づくりについてです。住みやすいまちで誰もがずっと住み続けるまちづくりを目指して、この支え合い協議体を、あらゆる社会教育団体と連携いたしまして、郷づくりともつながっていく施策が重要と思っております。御承知の方もおられると思えますが、新年度は、あらゆる社会教育団体が、中央公民館にブースを設けることになっております。ここに、ボランティアセンターも昨年から設置されました。中央公民館をこの郷育カレッジ、そしてボランティアセンター、そして社会教育団体とつなげまして、教育部局さらには福祉部局、健康部局ともつながった連携をし、循環していける、そういう環境づ

くりをこれから市長部局といたしましても充実させていただく必要があると思っております。

本日は、足りないところもあったかと思いますが、いい協議ができたと思えました。これを踏まえ、しっかり新年度に向けて、取り組んでまいりたいと考えているところでございます。本日は本当にありがとうございました。終了の時刻となりました。御意見、御提言がないようでしたら、協議事項については以上で終わらせていただきたいと思います。

広報秘書課に進行をお返しします。

4 その他

堀田：郷育カレッジ、生涯学習の推進、そして文化、健康、スポーツの推進など、たくさんの御意見、どうもありがとうございました。

次第の4その他です。事務局から何か連絡事項等ございますでしょうか。ないようですね。

当初の予定どおり、ほぼ1時間30分で進めていただきまして、どうもありがとうございました。

今年度の総合教育会議は本日が最後となっております。来年度の開催期日については、決定次第、また改めて御連絡をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

5 閉会の宣言

堀田：以上をもちまして、平成30年度第3回総合教育会議を終了させていただきます。

本日、さまざまな御意見をいただきまして、どうもありがとうございました。